

土砂災害に備えて

連絡先：佐井村 総務課
電話：0175-38-2111

大雨の時など避難の際に必要となりますので、家族全員がわかる場所に貼っておきましょう。

① 土砂災害警戒区域や避難場所などを確認しておきましょう！



① 日頃からの確認

② 雨が強くなってきたら



② 雨が強くなってきたら、積極的に雨量情報、予報、警報などの情報を入手しましょう！



③ 前兆現象を見たら

③ 前兆現象を見つけたら、直ちに役場などに連絡しましょう！

●まずはテレビやラジオなどで気象情報を確認しましょう。

土砂災害の種類と前兆現象

種類	前兆現象
<p>がけ崩れ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○がけに割れ目が見える。 ○がけから水がわき出ている。 ○がけから小石がパラパラと落ちてくる。
<p>土石流</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○急に川の流が濁り流木が混ざっている。 ○山鳴りがする。 ○雨が降り続けているのに川の水位が下がる。
<p>地滑り</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○沢や井戸の水が濁る。 ○地面にひび割れができる。 ○斜面から水がふきだす。

④ 基準雨量を越えていたら、避難が必要です！

⑤ 避難勧告などの連絡があったら、直ちに避難しましょう！

⑥ 避難の際は、こんなことに気をつけましょう！

- 避難場所へ避難する際は、他の土砂災害危険箇所や浸水するおそれがある区域を避けた避難経路を選択しましょう。
- 溪流から直角方向に避難し、できるだけ溪流から離れましょう。



④⑤⑥ 避難の時には

●避難準備情報が出たら・・・

家族などとの連絡、非常用持出品の用意など、避難準備を始めてください。

●避難勧告が出たら・・・

計画された避難場所などへ避難してください。

●避難指示が出たら・・・

避難していない場合は、避難行動に移るとともに、避難場所への避難が困難な場合には、周囲の建物より比較的高い建物（鉄筋コンクリートなどの堅固な建物）の2階以上（斜面と反対側の部屋）に避難するなど、生命を守る最低限の行動をしてください。

NTT 災害用伝言ダイヤルの活用

●家族と連絡が取れない時は・・・

録音 伝言の録音方法

171にダイヤル
↓
「1」をダイヤル
* 電話番号（市外局番から）
↓
伝言が録音される

再生 伝言の再生方法

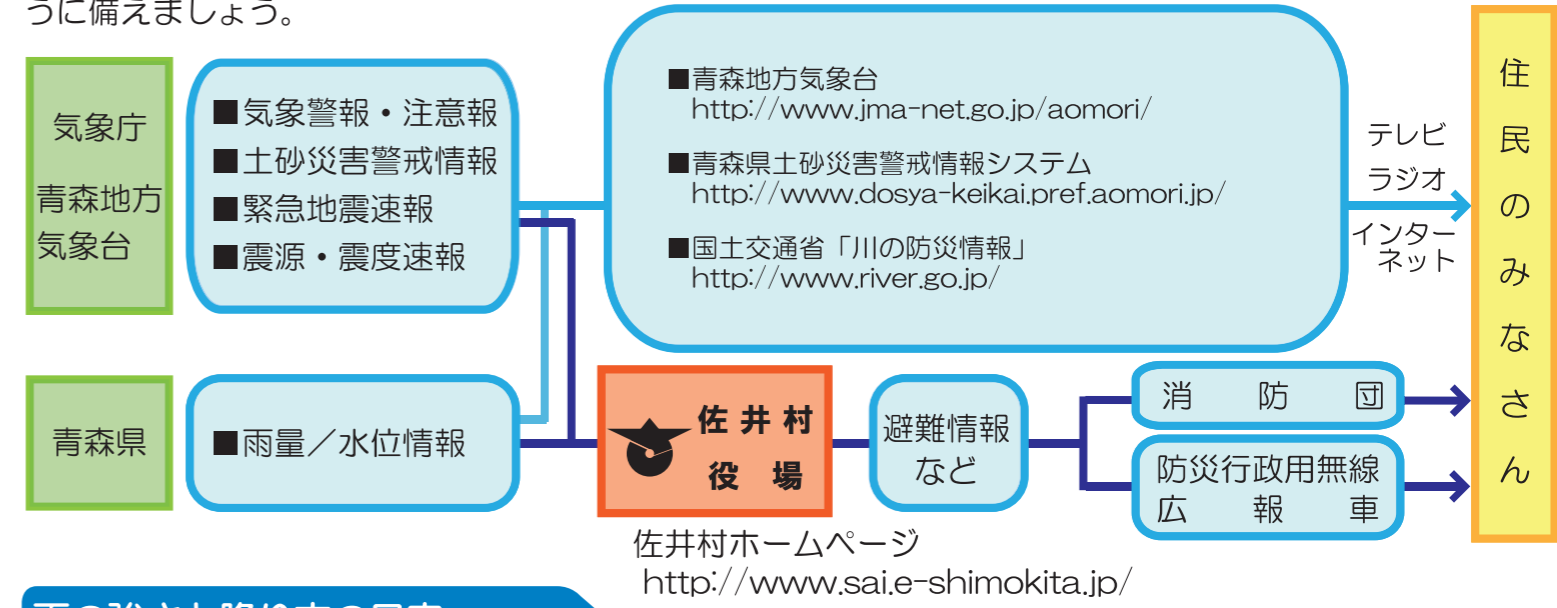
171にダイヤル
↓
「2」をダイヤル
* 電話番号（市外局番から）
↓
伝言が再生される

* 電話番号には、それぞれ次の番号を市外局番から入力してください。

- 被災地の方**
自宅の電話番号、または連絡を取りたい被災地の方の電話番号
- 被災地以外の方**
連絡を取りたい被災地の方の電話番号

防災情報の伝達経路

防災情報は、各機関から下のような経路で伝達されます。住民のみなさんは防災行政用無線・テレビ・インターネットなどを活用して情報収集をしてください。また、避難先でもこれらの情報が受け取れるように備えましょう。



雨の強さと降り方の目安

1時間雨量(mm)	予報用語	降り方のイメージ	屋外の様子	災害発生状況
10～20	やや強い雨	ザーザー降る。	地面一面に水たまりができる。	この程度の雨でも長く続く時は注意が必要。側溝や下水、小さな川があふれ、小規模の崖崩れが始まる。
20～30	強い雨	どしゃ降り。		山崩れ・崖崩れが起きやすくなり、危険地帯では避難の準備が必要。都市では下水管から雨水があふれる。
30～50	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る。	道路が川のようになる。	マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。
50～80	非常に激しい雨	滝のように降る。	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる。	雨による大規模な災害の発生するおそれ強く、厳重な警戒が必要。
80～	猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる。		

資料：気象庁（H14.1一部改正）